

9月3日 第44回 副作用研究会

外用タクロリムス水和物(プロトピック軟膏)による酒さ様皮膚炎発現の一症例

にいがた調剤薬局 / 田原 清子 渡部 陽子

【1. 患者背景】55歳女性、併用薬・副作用歴なし

【2. 経過(薬歴コメントをもとに)】

・H16.2~9月までプロトピック軟膏を使用。

・H16.12/24初来局 アゼプチン、ミノマイシン(50)、プロペト軟膏開始。顔に赤み・湿疹あり。
「プロトピック軟膏が合わなかったのかもしれない」との談。

全5回来局の間(~3/15まで)一度ゼスランの頓服が追加になった以外は処方変更なし。途中Dr. から『プロトピック軟膏による酒さ様皮膚炎』と診断された。

【3. タクロリムス水和物の作用】 サイトカイン産生抑制 肥満細胞脱顆粒抑制 好酸球脱顆粒抑制 抗原提示能抑制

【4. 酒さ様皮膚炎について】

・原因 ステロイド外用剤(1957年 Frumess らの報告に始まり、1972年 Sneddon の報告をもって定義づけされた)

・発症と男女比 患者の9割が40~60代の女性。男女比 = 1:15。

・症状 毛細血管の拡張、皮膚の萎縮が特徴。掻痒は稀だが灼熱感はかなり強い。

・治療 ステロイド外用剤の中止。ステロイド外用剤が上位ランクの場合は一時的にランクダウンしてから。テトラサイクリン系・マクロライド系抗生剤の内服、保湿性外用剤の使用。灼熱感が強い場合はマイナートランキライザーの併用が有効。

【5. タクロリムス軟膏による酒さ様皮膚炎類似の症状】

・臨床試験、市販後調査の段階で報告なし。

・アトピー性皮膚炎以外の使用(脂漏性湿疹・顔面湿疹・接触性皮膚炎)での発現例が多い。

・これまで報告された事例からみると 必ずしも毛包虫が陽性ではない 毛細血管の拡張はみられない場合が多い 皮膚症状は酒さ様皮膚炎とほぼ同等

【6. 結語】

1. 酒さ様皮膚炎の原因はステロイド外用剤の長期使用とされてきたが、タクロリムス軟膏での症例報告や類似症状の報告が増えている。

2. その症状はステロイド外用剤で起こる酒さ様皮膚炎と多少異なり、タクロリムス軟膏によるものは毛細血管拡張を伴わない場合が多く、強力な免疫抑制効果による易感染性とも考えられるが、詳細は不明な点が多い。

3. タクロリムス軟膏使用中に皮疹の悪化がみられた場合は、単独の使用であっても酒さ様皮膚炎について配慮する必要があると考える。

